

(熊本県立湧心館高等) 学校 令和元年度 (2019年度) 学校評価表

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	三課程（全定通）運営と学校経営の整合性を図る	本校のスクールアイデンティティが三課程で、共有化されているか。課程間の情報交換が、継続的に図られているか。より良く改善が進められているか。	教務・進路・生徒指導部の情報の共有化および連携の強化を図る。三課程での研修を年に2回開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・三課程教頭間で定期的に情報交換する。 ・三課程で研修を企画する。 ・三課程で協力し、創立40周年記念式典を成功させる。 	B	<p>(成果)</p> <p>創立40周年記念式典は職員の協力により、特に大きなミスもなく無事に終えることができた。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は創立50周年記念式典を迎え、定時制が主となり開催するが、三課程の情報共有及び協力が不可欠である。 ・目標である三課程合同での研修は夏休みの1回に終わった。人権教育の職員研修など三課程合同を検討する。
	適応指導の充実	学年及び関係する分掌部が連携して具体的な取組が進められているか。	年間を通した新入生への、適応指導の充実。1年生の転学・転籍・退学者数割合12%以内。	適応指導委員会が作成するシラバスに従い学年や各分掌部がそれぞれの取組を実施する。	B	<p>(成果)</p> <p>適応指導シラバスに加えソーシャルスキルトレーニング(以下SST)等を工夫して取り入れた。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学後、頑張っていた生徒も夏休み明けから徐々にクラスの雰囲気馴染めないことが多かった。 ・SSTの実施回数を増やすなど、生徒状況の把握に努める。 ・指導に手のかかる生徒が増え、担任や学年主任への負担が増えた。 ・今年度は4月の生徒

						理解研修で名前の挙がっていない生徒の問題行動が目立ち、新入生全員の全職員への情報共有及び全職員による対策を検討したい。
	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間内に仕事を終わらせようとする意識を持っているか。 ・優先しなければならない仕事と時間をかけてよい仕事を整理して業務に当たっているか。 ・会議の削減に努め無駄を省き所要時間の短縮に努めているか。 ・課題を一人で抱え込まず学年や管理職に相談しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の1か月の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が45時間を超えない。 ・全職員の1年間の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が、360時間を超えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は勤務時間に仕事を終わらせることを意識して業務を行う。 ・仕事の優先順位を付け、計画的に業務に当たる。 ・会議は必要に応じ開催し時間をかけないことを意識する。 ・一人で問題に対処せず、学年、管理職が支援し組織として対応する。 	C	<p>(成果)</p> <p>勤務時間外在校時間を45時間内に抑えようとする職員が増えた。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間外の在校時間が80時間や中には100時間を超える職員もあり、目標を達成したとは言えない。 ・勤務時間内に仕事を終わらせようとする職員の意識を高めるとともに各職員が受け持つ仕事量を再配分する必要がある。 ・次年度は会議の開催の見直し、学校行事の精選も運営委員会で検討する。また、考査期間中の会議も精選する。
学力向上	主体的・対話的で深い学びの中での思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって探究を深める未来の創り手を育てる授業となっているか。 ・各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり思いや考えをもとに創造することに向かう過程を重視した授業となっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニング型授業を実践している職員の割合が90%以上。 ・その他のも生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばす活動を取り入れた授業の実施率が90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業・研究授業を実施する。近隣中学校からもアドバイスをいただく。 ・大学入学共通テスト対策を意識し、定期考査に思考力・判断力・表現力を試す問題を入れる。 	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業・研究授業や、近隣小中学校への授業参観は予定通り実施できた。授業では主体的・対話的で深い学びへのアプローチが進んだ。 <p>(課題)</p> <p>定期考査に思考力を問う問題を入れることについては工夫が必要と思われる。</p>

<p>「学びのユニバーサルデザイン」の構築</p>	<p>多様化する生徒のニーズに応じた授業改善ができていますか。</p>	<p>ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実施率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の環境の整備を始めとする基礎的環境整備の充実を図る。 ・県立教育センター指導主事等のアドバイスを踏まえ、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を実践する。 ・基礎学力及び学習習慣の定着。 	<p>C</p>	<p>(成果) 特別支援教育課指導主事・県立教育センター・スーパーティーチャールの指導を受け、少しずつ授業改革が進んだ。</p> <p>(課題) 本校では特別な教育的支援を必要とする生徒が増えつつあり、講義形式の授業から、生徒の学びを保証するための授業へと転換していかなければならない。</p>
	<p>小中学校等からの学びの連続性の確保と多様な学びの場が整備されているか。</p>	<p>「通級による指導」の授業(自立活動)を受けて良かったと回答した生徒が80%以上。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「通級による指導」開始時点での生徒のニーズを把握。 ・1年間の長期目標とともに、当面の短期目標を定め、指導のねらいの明確化。 ・教職員全員が「通級による指導」を理解し、支援し他教科の授業においてもその指導方法を活用する。 	<p>A</p>	<p>(成果) ・今年度は職員研修において、ビデオで録画した「通級による指導」の授業を視聴し、授業の実態を学習することができた。</p> <p>・今年度は「通級による指導」の担当を二人に増やし、一人にかかる負担を軽減できた。</p> <p>(課題) 「通級による指導」のノウハウを他教科の職員に紹介することにより、すべての授業において生徒が分かる授業及び主体的に考える授業の実現を目指す。</p>
<p>単位制の特徴を生かした教育課程の検討</p>	<p>学校の教育目標を踏まえたカリキュラム・マネジメントを推進しているか。</p>	<p>授業を精選し新旧のカリキュラムの授業をどのように開講していくか、「教育課程検討委員会」を月1回開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の目標や内容の見直しを行い、言語能力・情報活用能力・問題発見解決能力等の育成を図る。 ・教育内容や教育活動の質の向上を検討する。 	<p>C</p>	<p>(成果) 5月に育友会総会のカリキュラムガイダンス、6月に科目ガイダンス、8～9月に個人面談を実施し、自分の進路を見据えたカリキュラムを組ませた。</p> <p>(課題) ・カリキュラム選択は進路目標との繋がりを考えた選択であることを生徒に確認させるべきである。</p> <p>・学校の教育目標を踏まえ、本校生徒にあったカリキュラムとなっているか、今一度各教科で検討する必要がある。</p>

キャリア教育 (進路指導)	キャリア教育の推進	多様化する社会構造を踏まえ、社会的・職業的自立に向けた能力・態度が育成されているか。	進路講話・職場見学・進学ガイダンス・ボランティア活動を通して具体的イメージ(職業観)を持った生徒が80%以上。	外部機関が主催する事業や地域・保護者及び産官学との連携をはかり、校内の取組を連動させて実施する。	B	(成果) ・本校同窓会、中小企業家同友会、ハローワーク等の外部機関と連携を図り、校内外での進路行事を充実させることができた。 (課題) ・活動には参加するが、積極的に取り組む態度に結びついていない。 ・保護者との協力のもとに行事を進める機会が少ない。
			インターンシップを通して働くことの意味や意義を考え、将来の進路目標を定めた生徒が80%以上。	職業講話等の事前指導、事業所との事前の打合せや、礼状の送付等を含め、活動の全体で大きな学びが得られるようにする。	B	(成果) ・インターンシップは事前指導から事後指導まで計画どおりに進められた。 ・生徒の進路希望に沿った職種のインターンシップ受け入れ先を新規に開拓することができた。 ・インターンシップ受け入れ先との連携や実習内容に課題があるものの、事前指導から事後指導まで生徒は一生懸命取り組み、校内での指導では得られない学びが得られた。 (課題) ・一部の生徒の意識の変化が見られない。実習に参加できない生徒がいる。
			働くことの意味を理解するとともに自身の将来像を現実的にイメージし、行動に移す生徒が80%以上。	進路・就職ガイダンスへの積極的な参加を通して、望ましい職業観を形成し、進路実現につながる積極的な学習に取り組ませる。	C	(成果) ・進路・就職ガイダンス等を通して働く意義を理解させ、今後の進路実現につながる示唆をいただいた。 ・公務員との交流会や建設産業ガイダンスへ予定通り参加した。 (課題) 日頃の学習活動が将来にどのように結びつくのかを意識させる必要がある。
	進路目標の達成	個に応じた進路指導の推進が進路目標の達成につながっているか。	進路希望調査・適性検査などを通して進路目標を設定した生徒が60%以上	二者面談・三者面談・進路部面談等を計画的に実施するとともに、各種調査結果などを活用し	B	(成果) ・家庭訪問、二者面談、進路希望調査等で生徒・保護者の考えを知ることができた。 ・適性検査や三社三校比較の作成、オープンキ

				て、生徒の自己理解に生かす。	<p>キャンパスへの参加などを通して、生徒は進路や自己についての理解を深めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己理解や職業理解等、進路研究に関わる情報提供を適宜行うことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から行動できない特定の生徒の活動が進んでいない。 ・得られたデータをもとに、生徒の能力を最大限に活かせるよう進路検討会を定期的に設ける。
	<p>基礎的な学力の向上を図るとともに、進路情報の提供と進路別学習の機会を充実に努め、生徒の進路選択の幅を広げられているか。</p>	<p>学校評価生徒アンケートで学校が進学や就職に関する情報や資料を提供していると回答した生徒が80%以上。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「高校生のための学びの基礎診断」を利活用することで、個に応じた学習指導や進路指導を行う。 ・学びなおし教材を1年生の授業で活用する。2年生では新聞記事を活用した週末課題を徹底する。 ・模試、進路のしおり、進路情報誌、進路ガイダンスなどの活用を進める。 ・キャリア別終礼・進路検討会等を定着させる。 ・入試制度改革に関する職員研修を実施する。 	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの基礎診断」を全学年実施し、診断結果の利活用の仕方についての職員研修を行った。 ・二者面談や家庭訪問時に生徒・保護者と一緒に診断結果を確認することができた。 ・学び直しの教材を授業の最初の10分で1枚のペースで行い、復習を通して基礎学力の定着に効果が見られた。 ・新聞記事を活用した週末課題を実施した。 ・進路検討会を6月と1月に行うが、生徒の進路と現状を比較検討する良い機会となった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験の受験者が少なかった。生徒保護者に向け、適切なアドバイスができていない。 ・模試の受験案内を早目に行い、担任から粘り強く呼び掛けてもらう必要がある。また、受験後の復習プリント、添削指導の機会を設け、ステップアップにつなげる指導が必要である。 ・大学入試制度や求人票の改訂等、次年度の変更が多数あり、進路のしおりの発行が遅れている。次年度は新調査書や新求人票についての職員研修を検討する。

生徒指導	基本的な生活習慣の確立（特に時間を守る取組）	生徒が健全に社会に適応できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・整容検査で合格する生徒が90%以上 ・遅刻数が年間月平均15人以下。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間の指導内容に差が生まれないように整容検査内容のマニュアルの活用を行う。 ・検査結果を共有化するために文書セキュアを活用してデータ管理を行う。 	B	<p>（成果）</p> <p>整容検査の年間計画表を教室や学年の掲示板に掲示したことで、検査日に合わせて髪を切るなど準備をすることができた。</p> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回同じ生徒が不合格になっており、その生徒の指導がうまくいかなかった。 ・検査結果のデータがセキュアにあることを生徒指導部以外に周知していなかった。 ・検査結果に不服を申し立てる一部の女子対策が、今後の課題である。
		生徒が社会に通用する能力を備えつつあるか。	チャイムと同時に授業を開始し、チャイムと同時に授業を終える授業が90%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい授業への取組指導を行うことで正しい言葉遣い、期限を守る態度、自己表現の向上等の社会人に必要とされる人間性を育成する。 ・教務部において、毎月「時間を守る取組」を継続する。 	B	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務部では毎月「時間を守る取組」を実施し、生徒の意識改革にチャレンジした。 ・ノーチャイムにも生徒はスムーズに適應できた。 <p>（課題）</p> <p>特別日課の際は事前指導を行うことで生徒は素直に動くことが多いが、行事後に一部の授業で気が抜けた生徒たちが騒がしいことがあった。</p>
	理性的態度と道徳的実践力の育成	規範意識の高揚、友愛・連帯の精神を養おうとしているか。	生徒総会を年間1回開催。委員会活動を年間3回以上開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会を実施し生徒の自主性を伸ばす。 ・委員会活動を3回以上実施することで委員会活動の活発化を図る。 	A	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会を実施した。以前より各種委員会活動は活性化した。 ・生徒会は、行事前や行事後の片付けなど以前より活発に活動するようになった。 <p>（課題）</p> <p>委員会を3回実施していない委員会もある。</p>
	自他を尊重し、互いに協力する態度や遵法精神の育成	生徒同士が互いを尊重し、協調しながら生活できているか。	昨年度の特別指導発生件数からの減少	SNSを中心に情報モラル、情報マナーについての指導を継続的に行う。	B	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の連休前に「ネットとつながる」をテーマにケーススタディの時間を確保し、情報マナーの重要性を伝えた。 ・スマホの取扱については毎月学年だよりで注意を促した。 ・SNSへの深刻な事態の書き込みは減少した。

						<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も年度初め、長期休業前には注意を促す時間を確保していく必要がある。 ・年度当初に情報モラルやマナーについて講話を行ったが、目に見えない所でのトラブルが多く、指導が追い付かなかった。 ・特性を持った生徒が人間関係を上手く築けず、ストレスから書き込みをしてしまうようなことが時々起きている。
	交通安全意識の確立、交通法規の理解と交通マナーの向上	交通事故・違反が減少したか。無施錠自転車減少したか。	昨年度の交通事故発生件数からの減少と二重ロック100%達成。	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教育講話の実施と、交通委員会の活動の充実を図る。 ・二重ロック及び無許可自転車指導を徹底する。 	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業前に交通安全教育の講話を実施できた。 ・交通委員会の活動として二重ロックの点検や呼びかけ下校時の交通指導等活発に活動した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予告があったときは、生徒は自分から検査に違反しないよう努力するようにはなったが、普段からの意識が100%とは言い難い。
人権教育の推進	研修の充実と職員の人権意識の高揚	教育の根幹に人権尊重を捉え、すべての教育活動において人権教育の推進ができているか。	教職員が人権尊重の理念を理解し、全ての教育活動において推進できるように、一人1回の校外研修を受講する。	計画的な研修による学び合いを通して、人権意識の高揚を図り、人権尊重の理念についての認識を深めるとともに実践的な指導力を育む。	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会や職員研修を計画的に実施できた。 ・校外研修にはほぼ全員の先生方に参加いただいた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の都合で当事者の講話になった。ただし、心情は生徒に伝わった。
	人権の重要課題の学習	人権課題を自分の問題として考える学習になっているか。	人権教育LHRを企画する「校内人権教育推進委員会」を毎月最低1回は開催し、これまでの積み上げに留意しつつ改訂を進め生徒の主体性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の担当者や推進委員を中心に、全職員が組織的に取り組める指導案の作成 ・意見交流を通して主体的に学びを深めるLHRの実施。 	C	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育LHRは各学年の担当の先生を中心に行うことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事に対応した委員会開催になり、月により偏りができ定期的な開催ができなかった。 ・LHRの活動の精選が必要であった。
	命を大切にすることを育む指導	人権尊重の精神に立った学校づくりが推進されている	すべての授業の中で命を大切にすることを育む心	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が多様な学びの中で自他の特性を自覚し主体的 		<p>(成果)</p> <p>「人権教育を通じて育てたい資質・能力」について、職員研修教科別の</p>

		か。 すべての教育活動の中で、「命を大切にす る心」を育む指導」の視点に 立った教育実践がなされて いるか。	るテーマの授 業を年に1回 取り入れる。	に学習に取り 組める授業の 工夫・改善を 行う。（生徒 理解研修） ・共感的人間 関係を育成す る支援の推進 （面談・家庭 訪問）	B	班別協議を行い、全ての 教科において人権尊重 の精神に立った授業が 展開できていることが 確認できた。 （課題） 生徒間のトラブルが発 生している。自分を大切 にするとともに、他人を 思いやる心の育成が必 要。
いじめ の防止 等	いじめ防 止対策委 員会を核 とした職 員間の連 携	学級・学年・各 分掌部など における連 携が成され ているか。 小さいいじ めを見逃さ ない初期対 応ができ ているか。	・いじめ解決 100%を目指 す。 ・初期対応を 速やかに行 う	・いじめ問題 への対応マニ ュアルの職員 への周知を図 り、全職員で 共通理解と防 止に取り組 む。 ・心のアンケ ート実施後、 または、いじ めが疑われる 事案を耳にし たら、速やか に担任は生徒 への聞き取り を行う。	C	（成果） 生徒からの相談、いじ め通報アプリ「スкуль ルサイン」、心のアンケ ート等の情報に職員が 速やかに対応するこ とができた。 （課題）いじめに対 する生徒の意識の低 さが際立つ。意識の 改善に向けた取組が 必要である。
心身の 健康	望ましい 生活習慣 の定着化 を図る	自分の生活習 慣に関心を 持ち、行動変 容への意欲を 高められた か。	自分の生活習 慣に関心を 持ち、改善し ていこうと する生徒が 80%以上	生徒の実態把 握を実施し、 自分の生活習 慣を見直す機 会を作る。	B	（成果） ・望ましい生活習慣 の定着化、特に「時 間を守る習慣」につ いては、数年前より 格段に改善した。 ・文化祭で朝食を テーマに保健委員 会発表を実施した。 その後の調査で、 栄養バランスを考 えて朝食を摂取し たいと考えるよう になった生徒は71 %だった。 （課題） 一部の生徒の生活 習慣の乱れも見ら れ、今後も継続し た取組を実施し ていきたい。
地域連 携（コミュ ニティ・ス クール など）	熊本地震 を教訓とし て、災害時 の地域との 連携体制の 構築や防災 教育の充実	学校運営協 議会を通し て、関係機 関と連携し ながら、防 災体制の整 備が進むと ともに防災 教育の充実 が図られて いるか。	・スモール訓 練を3回、 避難訓練を 1回実施 ・熊本シェ イクアウト 訓練を1回 実施	学校運営協 議会を開催 し、各委員 に御意見を 伺いなが ら、地域防 災や防災教 育についての 取組を充実 させる。各 避難訓練を 通して、生 徒の防災意	A	（成果） 避難マニュアルの 作成、ぼうさい通 信の毎月の発行、 スモール訓練、三 課程合同避難訓 練、熊本シェイク アウト訓練の実 施などを予定ど おり実施し、生徒 の防災意識を高 めることができた。 ・学校運営協 議会でも委員 から適切な指導を

				識を高める。		いただき、実施要項を改善し、職員及び生徒に周知できた。 (課題) 学校運営協議会を防災型から総合型への移行を検討する時期にきている。
開かれた学校作り	広報活動を効果的に実施しているか。	ホームページの速やかな更新	体験入学や中学校説明会、中学校訪問を充実する。湧水（学年広報誌）を毎月配布する。学校HPを速やかに更新する。安心メールを活用する。		C	(成果) ・体験入学や中学校説明会、中学校訪問を予定通り実施し、PRに努めた。 ・毎月、湧水を発送し、学校の行事・生徒の様子などを連絡した。安心メールで「週末やっておくべきことと来週の流れ」を学年生徒・保護者に毎週連絡した。 ・修学旅行でも安心メールと学校HPを活用できた。 (課題) ・40周年記念式典の準備もあり、ホームページの速やかな更新ができなかった。 ・郵送物を確認していない場合がある。安心メール等でも湧水発送の件について配信している。
	地域社会に、学校をPRしているか。地域に貢献しようとする生徒の態度が育っているか。	昨年度よりも体育大会及び湧心祭での来校者の増加	生徒でポスター等を作成し、学校周辺地に配付する。地域のボランティア活動に参加する		B	(成果) ・2学年では保護者と連携して、「みずあかり」ボランティアを実施できた。 ・自分の世界を広げるために校外活動への参加をはたらきかけ、多くの生徒をボランティア活動や講演会等に参加させることができた。 ・ボランティア部との合同で、募金活動、球根の植え付け等、また地域の祭りの準備にも参加した。 (課題) ・参加者の輪を更に広げる必要がある。

4 学校関係者評価

- 働き方改革について、やり方を工夫して職員の残業をなくす取組が必要である。
- 職員研修について、学校評価表での評価項目がない。
- いじめについては対策を講じているが、自殺を考える生徒が出ないように日頃から教師が生徒の観察を続け、いじめの未然防止を図る必要がある。いじめを考える機会を生徒に与えてはどうか。
- いじめの対策とともに、不登校生徒への支援も必要である。
- 指導に時間のかかる生徒に対応し、職員が疲弊していないか心配である、職員の心の支えをお願いしたい。
- 評価表の中に、外来語の専門用語が増え、理解に苦しむことがある。専門用語の注釈がほしい。
- PTA総会等の講演について、欠席された保護者へ、講演を録画しDVDを配付したらどうか。

5 総合評価

- 学校の教育目標に「命を大切に。人権を尊重する。いじめを許さない。『怒』思いやりの気持ちを持つ」という文言があり、特に「『怒』思いやりの気持ちを持つ」という目標を高く評価したい。教育目標実現のため、様々な学習体験を通じて、他者との共生や異なるものへの寛容さを持つなどの感性、及びそれらを大切にすることを育む教育の実践が求められる。
- 高校での授業において、中学校の学び直しなど基礎・基本を指導する機会が得られていることに感謝したい。引き続き、基礎・基本の徹底をお願いし、分かる授業の実践を期待する。
- 様々な場面で、職員が様々な場面で苦勞していることは評価している。職員研修の機会を設けて教師力を上げるよう努力してもらいたい。

6 次年度への課題・改善方策

- 働き方改革については、校内行事や会議の精選、正担任・副担任の業務分担、教師の校務分掌部担当業務量の見直しを行うなどの改善を図るとともに、組織として校務に当たり、残業をなくす取組を推進する。
- 職員研修については、それぞれ小項目のなかに研修内容を明記するとともに、研修結果についても評価を行う。
- いじめについては、日頃から教師が生徒の観察を続け、いじめの情報の共有や指導体制・対応体制の検討を行うとともに、いじめの早期発見及び早期解消を図る。また、いじめをしない、許さない学校作りを進める。
- 不登校生徒への支援については、SCやSSWの専門家からの支援を含め、家庭訪問等を通じて生徒や家庭との信頼関係を深め、生徒の悩みや心配事のアドバイスを行う。
- 衛生委員会の実施回数を増やすことで、職員の健康面についての配慮することを検討し、職員を支援する体制を強化する。
- 次回から、学校評議員会の資料に注釈を入れる。講演会のDVD配付については、このことに要する負担増も懸念され、働き方改革もあり、講演概要の記録の配付を検討したい。